

国立青少年教育施設における傷病の概況

(令和元年度調査)

令和2年11月



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

目 次

I. 調査の概要

- 1. 調査の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 2. 調査対象とした傷病の条件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 3. 調査期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 4. 調査対象とした施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 5. 調査実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 6. 調査内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 7. 本書を読むに当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1

II. 調査結果の概要

- 1. 調査結果のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2
 - (1) 施設で発生した傷病の概況
 - (2) 負傷の概況
 - (3) 疾病の概況
 - (4) 負傷の発生件数・割合の推移（前回調査との比較）
- 2. 傷病の特徴と今後の安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 4
 - (1) 負傷の特徴と安全対策
 - (2) 疾病の特徴と安全対策

III. 調査結果

- 1. 施設で発生した傷病の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 5
 - (1) 施設で発生した傷病の件数
 - (2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合
 - (3) 月別にみた傷病の発生件数・割合
 - (4) 利用期間別にみた発生件数・割合
 - (5) 時間別にみた発生件数・割合
 - (6) 活動内容別にみた発生件数・割合
 - (7) 場所別にみた発生件数・割合
 - (8) 天候別にみた発生件数・割合
 - (9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合
- 2. 負傷の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 11
 - (1) 負傷の状態
 - (2) 症状別にみた負傷の部位、程度、要因
 - (3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ② 月別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ④ 活動内容別、場所別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数

(4) 負傷した時の状況

- ① 負傷の多かった活動の事例（上位 5 つ）
- ② その他の活動で重傷だった事例

3. 疾病の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 26

(1) 疾病の状態

(2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応

(3) 状況別・症状別にみた疾病の発生件数

- ① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発生件数
- ② 月別・症状別にみた疾病の発生件数
- ③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数
- ④ 活動内容別・場所別・症状別にみた疾病の発生件数
- ⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数

IV. 傷病の特徴と今後の安全対策

1. 負傷の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 35

(1) 負傷の特徴

(2) 今後の安全対策

2. 疾病の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 35

(1) 疾病の特徴

(2) 今後の安全対策

参考資料

傷病記録

普及啓発用チラシ

I. 調査の概要

1. 調査の趣旨

本調査は、国立青少年教育施設で発生した傷病や事故の状況を把握し、その傾向や要因を検証することで、施設の安全管理の改善や安全対策の充実に資する基礎資料を得ることを目的としている。

2. 調査対象とした傷病の条件

研修期間中に発生した傷病もしくは活動等によって既往症が悪化した傷病のうち、以下のいずれかの状況に該当する傷病

- ・保健室や事務室で対応した傷病
- ・病院を受診した傷病（事務室を通さず、団体が直接病院に搬送した傷病も含む）
- ・活動現場等で施設職員が手当てした傷病

3. 調査期間

平成31年4月1日（月）～令和2年3月31日（火）

4. 調査対象とした施設

国立青少年教育振興機構が有する施設27施設（国立オリンピック記念青少年総合センターを除く）

5. 調査実施体制

国立青少年教育振興機構教育事業部企画課（調査・普及）、青少年教育研究センター（集計・分析）

6. 調査内容

- （1）傷病者の情報（氏名、性別、年齢）
- （2）傷病が発生した状況（日時、利用者数、天候、活動場所、活動内容、処置・静養後等）
- （3）けが（症状、部位、程度、けがをした時の状況）又は病気（症状、時期）
- （4）傷病の発生要因（本人、指導・引率者、装備等、環境）

7. 本書を読むに当たって

- ・複数の傷病が重複して発生した場合、最も当てはまる症状を一つ選んで回答しているため、副次的に発生した傷病は件数に含まれていない。

例：自転車で転倒し、手首を骨折、足を擦りむいた場合 → 骨折（手首）として集計

- ・重複回答や無回答によって回答が分からなかったものは「不明」として集計している。
- ・図表に示している回答比率（%）は小数点以下第2位を四捨五入しているため、その和が100.0%と一致しない場合がある。

Ⅱ. 調査結果の概要

1. 調査結果のポイント

(1) 施設で発生した傷病の概況

- 令和元年度の国立青少年教育施設（27 施設）の利用者数は約 277 万人で、そのうち、傷病の発生件数は 3260 件（負傷 1013 件、疾病 2247 件）で、前年度（3469 件）に比べ、209 件（負傷 128 件、疾病 81 件）減少した。[p5・表 1-1]
- 傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷 370 件、疾病 831 件）が最も多く、傷病の発生件数のおおよそ 3 割半を占めていた。[p5・表 1-2]
- 月ごとに傷病の発生件数をみたところ、負傷は「7 月」（162 件）、疾病は「8 月」（415 件）が多く、施設で発生した傷病の 8 割弱は 4～9 月（春・夏）に起きていた。[p6・表 1-3]
- 時間ごとに傷病の発生件数をみたところ、負傷の発生は午前午後ともに活動の後半の時間帯で多くなる傾向がみられ、疾病の発生は朝や午前中の時間帯に多くなる傾向がみられた。[p7・表 1-5]

(2) 負傷の概況

- 負傷で多かった症状は「打撲」（163 件）で、次いで「虫さされ」（160 件）、「ねんざ」（143 件）であった [p11・表 2-1-1]。症状ごとに負傷した部位と負傷の要因をみると、それぞれ多かった部位や要因は表 1-1 のとおりであった [p13・表 2-2-1、p14・表 2-2-3]。

表 1-1. 負傷の症状別にみた負傷した部位と負傷の要因（上位 3 項目）

症 状	部 位	要 因
1. 「打撲」 (163 件)	1. 「頭」(40 件) 2. 「顔」(19 件) 3. 「手・指」(18 件)	1. 「不注意 (本人)」(88 件) 2. 「不慣れ (本人)」(41 件) 3. 「失敗 (本人)」(40 件)
2. 「虫さされ」 (160 件)	1. 「下腿」(31 件) 2. 「足首」(28 件) 3. 「手・指」(23 件)	1. 「虫・動物 (環境)」(136 件) 2. 「不適切な服装 (装備)」(36 件) 3. 「不注意 (本人)」(22 件)
3. 「ねんざ」 (143 件)	1. 「足首」(114 件) 2. 「手首」(11 件) 3. 「足・指」(4 件)、「手・指」(4 件)	1. 「不注意 (本人)」(63 件) 2. 「不慣れ (本人)」(49 件) 3. 「失敗 (本人)」(36 件)

- 負傷の発生件数が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（126 件）で、次いで「野外炊事」（123 件）、「登山・ハイキング」（93 件）であった。[p8・表 1-6]
- 活動内容ごとに発生した負傷の症状をみたところ、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「打撲」（27 件）、「ねんざ」（25 件）、「すり傷」（16 件）、野外炊事では「やけど」（47 件）、「きり傷」（28 件）、「虫さされ」（22 件）、登山・ハイキングでは「ねんざ」（33 件）「虫さされ」（25 件）、「すり傷」（7 件）による負傷が多くなっている。[p18・表 2-3-4]

(3) 疾病の概況

- 疾病で多かった症状は「発熱」（704 件）で、次いで「頭痛」（319 件）、「腹痛」（229 件）であった。[p26・表 3-1-1]
- 症状ごとに発症した要因をみると、発熱では「疲労 (本人)」(425 件)、「気温 (環境)」(128 件)、「不安・心配・緊張 (本人)」(98 件)、頭痛では「疲労 (本人)」(188 件)、「気温 (環境)」(74 件)、「寝不足 (本人)」(65 件)、腹痛では「疲労 (本人)」(118 件)、「不安・心配・緊張 (本人)」(68 件)、「不慣れ (本人)」(25 件)が多くなっていた。[p27・表 3-2-1]

(4) 負傷の発生件数・割合の推移（前回調査との比較）

- ・症状別にみると（表 1-2）、「打撲」「虫さされ」「ねんざ」の上位 3 項目の順位は前回調査と変わらず、総数に占める割合も大きな変化はみられなかった。
- ・活動内容別にみると（表 1-3）、「スポーツ活動」による負傷の発生件数はおよそ半減（104 件減少・前年比 54.8%）し、総数に占める割合も約 8 ポイント減少した。
- ・活動場所別にみると（表 1-4）、「屋外運動コース」「グラウンド・広場・コート等」「体育館・プレイホール・講堂」の上位 3 項目は前回調査と変わらないものの、負傷の発生件数は「グラウンド・広場・コート等」が 32 件減、「体育館・プレイホール・講堂」が 37 件減となっていた。

表 1-2. 症状別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

平成30年度（前回調査）

順位	症状	件	%
1	打撲	202	17.7
2	虫さされ	182	16.0
3	ねんざ	171	15.0
4	すり傷	136	11.9
5	すり傷	83	7.3
6	やけど	82	7.2
7	骨折	53	4.6
8	突き指	36	3.2
9	鼻血	33	2.9
10	さし傷	24	2.1



令和元年度（今回調査）

順位	症状	件	%
1	打撲	163	16.1
2	虫さされ	160	15.8
3	ねんざ	143	14.1
4	すり傷	106	10.5
5	すり傷	103	10.2
6	やけど	79	7.8
7	骨折	50	4.9
8	突き指	44	4.3
9	鼻血	32	3.2
10	眼のけが	13	1.3

表 1-3. 活動内容別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

平成30年度（前回調査）

順位	活動	件	%
1	スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）	230	20.2
2	野外炊事	122	10.7
3	自由時間	107	9.4
4	登山・ハイキング	91	8.0
5	研修・学習活動	83	7.3
6	オリエンテーリング・ウォークラリー	76	6.7
7	移動中	59	5.2
8	就寝時間（起床時も含む）	38	3.3
9	アドベンチャープログラム・インシアティブゲーム	30	2.6
10	沢登り・川遊び	28	2.5



令和元年度（今回調査）

順位	活動	件	%
1	スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）	126	12.4
2	野外炊事	123	12.1
3	登山・ハイキング	93	9.2
4	自由時間	88	8.7
5	オリエンテーリング・ウォークラリー	75	7.4
6	研修・学習活動	66	6.5
7	移動中	60	5.9
8	アドベンチャープログラム・インシアティブゲーム	43	4.2
9	就寝時間（起床時も含む）	35	3.5
10	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	29	2.9

表 1-4. 活動場所別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

平成30年度（前回調査）

順位	場所	件	%
1	屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）	217	19.0
2	体育館・プレイホール・講堂	183	16.0
3	グラウンド・広場・コート等	181	15.9
4	野外炊事場	119	10.4
5	宿泊室	106	9.3
6	研修室・オリエンテーション室	71	6.2
7	通路・階段	65	5.7
8	敷地外の活動場所（バス等の移動も含む）	53	4.6
9	浴室	17	1.5
10	食堂	14	1.2



令和元年度（今回調査）

順位	場所	件	%
1	屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）	201	19.8
2	グラウンド・広場・コート等	149	14.7
3	体育館・プレイホール・講堂	146	14.4
4	野外炊事場	123	12.1
5	宿泊室	95	9.4
6	通路・階段	54	5.3
7	研修室・オリエンテーション室	47	4.6
8	敷地外の活動場所（バス等の移動も含む）	42	4.1
9	浴室	26	2.6
10	海洋施設	21	2.1

2. 傷病の特徴と今後の安全対策

(1) 負傷の特徴と安全対策

<負傷の特徴>

- 負傷の多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」「野外炊事」「登山・ハイキング」で、「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」では打撲、ねんざ、すり傷による負傷が多く、「野外炊事」ではやけど、きり傷、虫さされ、「登山・ハイキング」ではねんざ、虫さされ、すり傷による負傷が多くなっている。
- 負傷した時の状況をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「アスレチックで綱を握れず、右肩から転落。右手首をついて打撲」「二人三脚リレーでペアリングメンバーとの足が合わず転倒。紐をつないでいた左側の足首をねんざ」、野外炊事では「カレー作りで鍋の油が顔にはね、やけど」「指導とは異なる方法でナタを使用して切った」、登山・ハイキングは「石の上に乗ってしまい、足首をねんざ」「バッタを追いかけていてハチの巣に接触してしまい、ハチに刺される」といった状況で負傷している。
- 負傷した時間をみると、午前・午後ともに活動の後半の時間帯（午前の活動：11 時台、午後の活動：16 時台）に負傷の発生が多くなる傾向がみられる。

<今後の安全対策>

- 負傷の要因の 6 割弱を本人の要因（不注意、不慣れ、失敗等）が占めていることから、指導者（利用団体の引率者、施設職員等）は、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかをイメージしやすいように、具体例を交えて分かりやすく説明する）を徹底し、利用者の安全意識（自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等）の向上に努めるようにする。
- 指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険の発見、把握に努め、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。特に、活動の後半は慣れや疲れ等で気が緩みやすくなるため、参加者に適宜声をかけたり、休憩をとるようにする。
- 施設は、事前打ち合わせの際に、施設で起きやすい事故やけがとその安全対策をきちんと説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるように支援する。

(2) 疾病の特徴と安全対策

<疾病の特徴>

- 発症した疾病の症状をみると、発熱、頭痛、腹痛、嘔吐、吐き気が上位を占めており、いずれの症状も「疲労」が主な要因として挙げられている。
- 疾病の申し出があった時間をみると、起床・朝食や午前の活動の時間帯（7～10 時台）に多くなる傾向がみられる。
- 疾病が発症した時期をみると、半数近くが急に体調を崩しているが、3 割弱は朝から、1 割強は前日からと答えており、疾病を申し出た者の約 4 割は事前に体調不良を感じている。
- 疾病が発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の約 3 割は帰宅している。

<今後の安全対策>

- 指導者は、施設での生活は体調を崩しやすい環境にあることを理解し、計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるようにするとともに、利用期間中は、定期的に健康チェックを行い、疲れている様子がみられる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。

Ⅲ. 調査結果

1. 施設で発生した傷病の概況

(1) 施設で発生した傷病の件数

令和元年度の国立青少年教育施設（以下、「施設」という。）の利用者数は約 277 万人（国立オリンピック記念青少年センターを除く）であった。

施設で発生した傷病の件数（表 1-1）は 3260 件（男性 1617 件、女性 1643 件）で、そのうち、研修支援※¹が 3152 件（男性 1562 件、女性 1590 件）、教育事業※²が 108 件（男性 55 件、女性 53 件）であった。傷病の件数の内訳をみると、負傷が 1013 件（男性 572 件、女性 441 件）、疾病が 2247 件（男性 1045 件、女性 1202 件）となっており、前年度（負傷 1141 件、疾病 2328 件）に比べ、負傷が 128 件、疾病が 81 件減少した。

表 1-1. 負傷・疾病別・事業種別傷病の発生件数 (件)

事業別	負 傷			疾 病			計		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
研修支援	951	541	410	2201	1021	1180	3152	1562	1590
教育事業	62	31	31	46	24	22	108	55	53
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1013	572	441	2247	1045	1202	3260	1617	1643

※1 研修支援：学校や青少年団体、青少年教育関係者等の研修目的達成に向けて、広く学習の場や機会を提供し、より効果的なプログラムの提案や教育的指導、助言等を行うこと。

※2 教育事業：青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成研修事業を行うこと。

(2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合

傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-2）、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷 370 件、疾病 831 件）が最も多く、傷病の発生件数のおおよそ 3 割半を占めている。

表 1-2. 年齢期別傷病発生件数・割合

年齢期	負 傷		疾 病		計	
	件	%	件	%	件	%
幼児	30	3.0	58	2.6	88	2.7
小学生	370	36.5	831	37.0	1201	36.8
中学生	258	25.5	572	25.5	830	25.5
高校生	147	14.5	435	19.4	582	17.9
大学生等	124	12.2	232	10.3	356	10.9
社会人	80	7.9	108	4.8	188	5.8
その他	4	0.4	11	0.5	15	0.5
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1013	100.0	2247	100.0	3260	100.1

(3) 月別にみた傷病の発生件数・割合

月ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-3）、負傷では「7 月」（162 件）が最も多く、次いで「5 月」（159 件）、「8 月」（152 件）となっており、施設で発生した負傷の 8 割弱は 4～9 月（春・夏）に起きている状況であった。一方、疾病は「8 月」（415 件）が最も多く、次いで「7 月」（325 件）、「4 月」（317 件）となっており、疾病についても 8 割弱が 4～9 月（春・夏）に起きている状況であった。

表 1-3. 月別傷病発生件数・割合

月		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
春・夏	4月	104	10.3	317	14.1	421	12.9
	5月	159	15.7	302	13.4	461	14.1
	6月	138	13.6	248	11.0	386	11.8
	7月	162	16.0	325	14.5	487	14.9
	8月	152	15.0	415	18.5	567	17.4
	9月	91	9.0	178	7.9	269	8.3
秋・冬	10月	58	5.7	88	3.9	146	4.5
	11月	39	3.8	66	2.9	105	3.2
	12月	24	2.4	88	3.9	112	3.4
	1月	45	4.4	132	5.9	177	5.4
	2月	41	4.0	87	3.9	128	3.9
	3月	0	0.0	1	0.0	1	0.0
不明		0	0.0	0	0.0	0	0.0
計		1013	100.0	2247	100.0	3260	100.0

(4) 利用期間別にみた傷病の発生件数・割合

利用期間ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-4-1）、負傷、疾病ともに「2 泊 3 日」（負傷 449 件、疾病 947 件）が最も多く、次いで「1 泊 2 日」（負傷 383 件、疾病 835 件）、「3 泊 4 日」（負傷 78 件、疾病 291 件）となっている。

泊数別に傷病の発生日をみたところ（表 1-4-2、表 1-4-3）、負傷・疾病ともに、1 泊 2 日では「1 日目」（負傷 249 件、疾病 452 件）、2 泊 3 日では「2 日目」（負傷 276 件、疾病 472 件）、3 泊 4 日では「3 日目」（負傷 28 件、疾病 110 件）に傷病の発生が多くなっている。

表 1-4-1. 利用期間別傷病発生件数・割合

利用期間		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
日帰り		28	2.8	33	1.5	61	1.9
宿泊	1泊2日	383	37.8	835	37.2	1218	37.4
	2泊3日	449	44.3	947	42.1	1396	42.8
	3泊4日	78	7.7	291	13.0	369	11.3
	4泊5日	38	3.8	83	3.7	121	3.7
	5泊6日	15	1.5	21	0.9	36	1.1
	6泊7日	5	0.5	19	0.8	24	0.7
	7泊8日以上	17	1.7	18	0.8	35	1.1
計		1013	100.0	2247	100.0	3260	100.0

表 1-4-2. 泊数別・発生日別負傷発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	249	65.0	127	28.3	19	24.4	5	13.2
2日目	134	35.0	276	61.5	27	34.6	9	23.7
3日目			46	10.2	28	35.9	15	39.5
4日目					4	5.1	6	15.8
5日目							3	7.9
計	383	100.0	449	100.0	78	100.0	38	100.0

表 1-4-3. 泊数別・発生日別疾病発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	452	54.1	284	30.0	49	16.8	10	12.0
2日目	383	45.9	472	49.8	99	34.0	19	22.9
3日目			191	20.2	110	37.8	16	19.3
4日目					33	11.3	26	31.3
5日目							12	14.5
計	835	100.0	947	100.0	291	100.0	83	100.0

(5) 時間別にみた傷病の発生件数・割合

時間ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-5）、負傷では「16 時」（123 件）が最も多く、次いで「11 時」（116 件）、「15 時」（114 件）となっており、午前・午後ともに活動の後半の時間帯で負傷の発生が多くなる傾向がみられた。一方、疾病では、「9 時」（200 件）が最も多く、次いで「8 時」（197 件）、「10 時」（177 件）となっており、疾病の申し出は朝や午前中の時間帯に多くなる傾向がみられた。

表 1-5. 時間別傷病発生件数・割合

時間		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
起床・朝食等	6時	11	1.1	82	3.6	93	2.9
	7時	25	2.5	169	7.5	194	6.0
	8時	13	1.3	197	8.8	210	6.4
活動（午前）	9時	23	2.3	200	8.9	223	6.8
	10時	91	9.0	177	7.9	268	8.2
	11時	116	11.5	161	7.2	277	8.5
昼食	12時	67	6.6	134	6.0	201	6.2
活動（午後）	13時	65	6.4	162	7.2	227	7.0
	14時	100	9.9	158	7.0	258	7.9
	15時	114	11.3	124	5.5	238	7.3
	16時	123	12.1	129	5.7	252	7.7
夕食・入浴等	17時	62	6.1	111	4.9	173	5.3
	18時	51	5.0	103	4.6	154	4.7
活動（夜）	19時	49	4.8	91	4.0	140	4.3
	20時	45	4.4	81	3.6	126	3.9
	21時	33	3.3	66	2.9	99	3.0
	22時	14	1.4	42	1.9	56	1.7
就寝	23～5時	11	1.1	58	2.6	69	2.1
不明		0	0.0	2	0.1	2	0.1
計		1013	100.0	2247	100.0	3260	100.0

※上記（左）の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

(6) 活動内容別にみた傷病の発生件数・割合

活動内容ごとに傷病の発生件数をみたところ(表1-6)、負傷では「スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)」(126件)が最も多く、次いで「野外炊事」(123件)、「登山・ハイキング」(93件)となっている。一方、疾病は「研修・学習活動」(457件)が最も多く、次いで「自由時間」(275件)「就寝時間(起床時間も含む)」(243件)、となっている。

表1-6. 活動内容別傷病発生件数・割合

活動		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
陸上活動	登山・ハイキング	93	9.2	91	4.0	184	5.6
	オリエンテーリング・ウォークラリー	75	7.4	118	5.3	193	5.9
	クロスカントリー	2	0.2	5	0.2	7	0.2
	サイクリング・マウンテンバイク	7	0.7	4	0.2	11	0.3
	アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	43	4.2	27	1.2	70	2.1
	クライミング・ボルダリング	3	0.3	3	0.1	6	0.2
	スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	126	12.4	240	10.7	366	11.2
水辺活動	カッター・カヌー・ボート・ヨット	21	2.1	47	2.1	68	2.1
	シュノーケリング・スキndaイビング	3	0.3	3	0.1	6	0.2
	海水浴・磯遊び・釣り	7	0.7	13	0.6	20	0.6
	沢登り・川遊び	21	2.1	13	0.6	34	1.0
雪上活動	スキー・スノーボード	26	2.6	25	1.1	51	1.6
	クロスカントリースキー	3	0.3	3	0.1	6	0.2
	雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	17	1.7	12	0.5	29	0.9
野外生活	野外炊事	123	12.1	114	5.1	237	7.3
	キャンプ(テント設営等)	2	0.2	6	0.3	8	0.2
	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	29	2.9	43	1.9	72	2.2
	創作活動(クラフト等)	28	2.8	29	1.3	57	1.7
	自然観察	18	1.8	14	0.6	32	1.0
研修	研修・学習活動	66	6.5	457	20.3	523	16.0
	奉仕活動	1	0.1	3	0.1	4	0.1
生活	自由時間	88	8.7	275	12.2	363	11.1
	つどい(朝・夕)	13	1.3	75	3.3	88	2.7
	清掃	6	0.6	32	1.4	38	1.2
	食事	16	1.6	166	7.4	182	5.6
	入浴	27	2.7	8	0.4	35	1.1
	就寝時間(起床時も含む)	35	3.5	243	10.8	278	8.5
	移動中	60	5.9	66	2.9	126	3.9
その他	入所前	7	0.7	27	1.2	34	1.0
	その他	47	4.6	85	3.8	132	4.0
不明		0	0.0	0	0.0	0	0.0
計		1013	100.0	2247	100.0	3260	100.0

(7) 場所別にみた傷病の発生件数・割合

場所ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-7）、負傷では「屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）」（201 件）が最も多く、次いで「グラウンド・広場・コート等」（149 件）、「体育館・プレイホール・講堂」（146 件）となっている。一方、疾病では、「宿泊室」（542 件）が最も多く、次いで「体育館・プレイホール・講堂」（360 件）、「研修室・オリエンテーション室」（315 件）となっている。

表 1-7. 場所別傷病発生件数・割合

場所		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
生活エリア	宿泊室	95	9.4	542	24.1	637	19.5
	通路・階段	54	5.3	38	1.7	92	2.8
	食堂	15	1.5	148	6.6	163	5.0
	浴室	26	2.6	4	0.2	30	0.9
活動エリア	研修室・オリエンテーション室	47	4.6	315	14.0	362	11.1
	体育館・プレイホール・講堂	146	14.4	360	16.0	506	15.5
	武道場	6	0.6	16	0.7	22	0.7
	クライミングウォール	0	0.0	1	0.0	1	0.0
	工作室・調理室等	4	0.4	10	0.4	14	0.4
	野外炊事場	123	12.1	106	4.7	229	7.0
	テントサイト	13	1.3	31	1.4	44	1.3
	グラウンド・広場・コート等	149	14.7	222	9.9	371	11.4
	屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）	201	19.8	227	10.1	428	13.1
	ロープスコース※	11	1.1	3	0.1	14	0.4
その他	海洋施設	21	2.1	45	2.0	66	2.0
	敷地外の活動場所（バス等の移動も含む）	42	4.1	93	4.1	135	4.1
その他	その他	60	5.9	86	3.8	146	4.5
不明		0	0.0	0	0.0	0	0.0
計		1013	100.0	2247	100.0	3260	100.0

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

(8) 天候別にみた傷病の発生件数・割合

天候ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-8）、負傷、疾病ともに「晴」（負傷 601 件、疾病 1353 件）が最も多く、次いで「曇」（負傷 275 件、疾病 563 件）、「雨」（負傷 123 件、疾病 293 件）となっている。

表 1-8. 天候別傷病発生件数・割合

天候	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
晴	601	59.3	1353	60.2	1954	59.9
曇	275	27.1	563	25.1	838	25.7
雨	123	12.1	293	13.0	416	12.8
雪	14	1.4	38	1.7	52	1.6
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1013	100.0	2247	100.0	3260	100.0

(9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合

病院受診の有無別に傷病の発生件数をみたところ（表 1-9-1）、負傷では「無」が 676 件、「日帰り」が 332 件、「入院」が 5 件となっており、病院を受診（日帰り、入院）した割合は 3 割強となっている。一方、疾病は「無」が 1843 件、「日帰り」が 392 件、「入院」が 12 件となっており、病院の受診（日帰り、入院）は 2 割弱となっている。

次に、傷病の処置・静養後の対応別に傷病の発生件数をみたところ（表 1-9-2）、負傷では「活動継続」が 891 件、「帰宅」が 122 件と 9 割強が活動を継続しているのに対し、疾病では「活動継続」が 1567 件、「帰宅」が 680 件と 3 割強が帰宅している状況であった。

表 1-9-1. 病院受診別傷病発生件数・割合

病院の受診	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
無	676	66.7	1843	82.0	2519	77.3
日帰り	332	32.8	392	17.4	724	22.2
入院	5	0.5	12	0.5	17	0.5
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1013	100.0	2247	100.0	3260	100.0

表 1-9-2. 処置・静養後の対応別傷病発生件数・割合

処置・静養後	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
活動継続	891	88.0	1567	69.7	2458	75.4
帰宅	122	12.0	680	30.3	802	24.6
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1013	100.0	2247	100.0	3260	100.0

2. 負傷の概況

(1) 負傷の状態

負傷の症状をみると（表 2-1-1）、「打撲」(163 件) が最も多く、次いで「虫さされ」(160 件)、「ねんざ」(143 件) となっている。「虫さされ」の種類をみると（表 2-1-3）、「アブ・ブヨ」(83 件) が最も多く 5 割強を占め、次いで「ハチ」(25 件)、「ダニ」(21 件) となっている。

負傷した部位をみると（表 2-1-2）、「手・指」(213 件) が最も多く、次いで「足首」(172 件)、「顔」(113 件) となっている。各部位の区分でみると、「下肢部」(406 件) が 4 割強を占めており、次いで「上肢部」(347 件) がおよそ 3 割半、「頭部」(227 件) が 2 割強となっている。

表 2-1-1. 症状別負傷発生件数・割合

症状	件	%
きり傷	103	10.2
さし傷	10	1.0
すり傷	106	10.5
やけど	79	7.8
日焼け	5	0.5
凍傷	0	0.0
打撲	163	16.1
突き指	44	4.3
ねんざ	143	14.1
靱帯損傷・断裂	12	1.2
脱臼	9	0.9
骨折	50	4.9
鼻血	32	3.2
歯の破折	10	1.0
眼のけが	13	1.3
虫さされ	160	15.8
かぶれ	3	0.3
気道閉塞・誤嚥	0	0.0
溺水	0	0.0
その他	71	7.0
計	1013	100.0

表 2-1-2. 部位別負傷発生件数・割合

部位	件	%	%
頭部	77	7.6	22.5
顔	113	11.2	
眼	27	2.7	
首	10	1.0	
上肢部	14	1.4	34.2
上腕	14	1.4	
肘	21	2.1	
前腕	41	4.0	
手首	44	4.3	
手・指	213	21.0	
体幹部	5	0.5	3.2
胸	8	0.8	
腹	5	0.5	
背中	14	1.4	
腰部	14	1.4	40.1
尻	7	0.7	
大腿	18	1.8	
膝	84	8.3	
下腿	63	6.2	
足首	172	17.0	
足・指	62	6.1	
全身	0	0.0	0
不明	1	0.1	0.1
計	1013	100.0	

表 2-1-3. 「虫さされ」の種類

種類	件	%
アブ・ブヨ	83	51.9
ハチ	25	15.6
ダニ	21	13.1
毛虫	2	1.3
ムカデ	2	1.3
クラゲ	4	2.5
その他	1	0.6
不明	22	13.8
計	160	100.0

表 2-1-4. 程度別負傷発生件数・割合

程度	件	%
軽微(その場で手当てできる軽いけが)	709	70.0
軽傷(医師による1か月未満の治療を要するけが)	258	25.5
重傷(医師による1か月以上の治療を要するけが)	44	4.3
致命傷(死亡・後遺症が残る重篤なけが)	1	0.1
不明	1	0.1
計	1013	100.0

負傷の程度をみると（表 2-1-4）、「軽微（その場で手当てできる軽いけが）」（709 件）が最も多く、発生した負傷の 7 割は軽微な負傷となっている。

負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-1-5）、「不注意（本人）」（432 件）が最も多く、次いで「不慣れ（本人）」（240 件）、「失敗（本人）」（177 件）となっている。各要因の区分でみると、本人に係る要因（1058 件）が 58.5%となっており、次いで指導・引率者に係る要因（297 件）が 16.4%、環境に係る要因（271 件）が 15.0%、装備に係る要因（106 件）が 6.0%となっていた。

表 2-1-5. 要因別負傷発生件数・割合

（複数回答）

要因		件	%	%
本人	失敗	177	17.5	58.5
	不注意	432	42.6	
	不慣れ	240	23.7	
	不適切な行動	51	5.0	
	寝不足	8	0.8	
	疲労	66	6.5	
	不安・心配・緊張	13	1.3	
	体力不足	31	3.1	
	人間関係(けんか、ふざけ等)	16	1.6	
	既往症	13	1.3	
	アレルギー	11	1.1	
指導・引率者	指導不足	70	6.9	16.4
	注意不足	170	16.8	
	経験不足	27	2.7	
	人数不足	6	0.6	
	連携不足	11	1.1	
	準備不足	13	1.3	
装備	不適切な服装	64	6.3	6.0
	装備不備	27	2.7	
	装備不良(破損・劣化)	5	0.5	
	施設・設備の欠陥・不良	12	1.2	
環境	荒天(強風、雷、吹雪等)	4	0.4	15.0
	気温	17	1.7	
	日差し	10	1.0	
	高度(標高)	2	0.2	
	水深	0	0.0	
	雪	9	0.9	
	落石・落木	1	0.1	
	不安定さ・滑りやすさ	82	8.1	
	虫・動物	140	13.8	
	植物	6	0.6	
	病原体(ウィルス等)	0	0.0	
その他		49	4.8	2.7
不明		27	2.7	1.5
回答者数		1013		↑

※上記の数値は回答数(N=1810)を基に割合を算出

(2) 症状別にみた負傷の部位、程度、要因

症状ごとに負傷した部位をみると（表 2-2-1）、打撲では「頭」（40 件）や「顔」（19 件）など頭部の負傷が多く、虫さされでは「下腿」（31 件）や「足首」（28 件）といった下肢部の負傷、ねんざでは「足首」（114 件）や「手首」（11 件）の負傷が多くなっている。

次に、症状ごとに負傷の程度をみると（表 2-2-2）、ほとんど症状では「軽微」が多くなっているが、歯の破折では 9 割、きり傷や目のけがでは 4 割弱が「軽傷」、骨折や脱臼では 5 割半が「重傷」となっている。

表 2-2-1. 症状別・部位別負傷発生件数

(件)

部位	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
頭部	16	1	4	2	0	0	40	6	0	1	0	0	0	0	0	5	0	0	0	2	77
	15	0	11	5	2	0	19	2	0	0	1	1	32	8	0	11	0	0	0	6	113
	0	0	1	0	1	0	5	1	0	0	0	0	0	2	13	1	0	0	0	3	27
	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	0	10
上肢部	1	0	1	0	0	0	3	1	2	1	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	14
	1	0	2	3	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	14
	0	0	11	0	0	0	2	2	1	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	21
	1	0	0	12	1	0	5	0	1	0	1	9	0	0	0	9	1	0	0	1	41
	1	0	1	4	0	0	8	0	11	1	0	13	0	0	0	4	0	0	0	1	44
	45	5	17	48	0	0	18	25	4	1	0	7	0	0	0	23	0	0	0	20	213
体幹部	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
	1	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	8
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	5
	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	7	14
下肢部	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	7
	1	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	5	18
	11	2	36	1	0	0	17	1	3	4	2	2	0	0	0	2	0	0	0	3	84
	3	0	7	2	1	0	6	2	1	0	0	2	0	0	0	31	0	0	0	8	63
	2	0	3	0	0	0	5	4	114	3	2	7	0	0	0	28	1	0	0	3	172
	5	2	9	1	0	0	14	0	4	0	0	2	0	0	0	14	0	0	0	11	62
全身	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計	103	10	106	79	5	0	163	44	143	12	9	50	32	10	13	160	3	0	0	71	1013

表 2-2-2. 症状別・程度別負傷発生件数

(件)

程度	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
軽微	62	9	95	64	5	0	116	37	102	4	0	0	31	1	8	123	2	0	0	50	709
軽傷	40	1	11	15	0	0	42	6	41	4	4	23	1	9	5	36	1	0	0	19	258
重傷	1	0	0	0	0	0	5	1	0	4	5	27	0	0	0	0	0	0	0	1	44
致命傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計	103	10	106	79	5	0	163	44	143	12	9	50	32	10	13	160	3	0	0	71	1013

症状ごとに負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-2-3）、打撲やねんざでは「不注意（本人）」（打撲 88 件、ねんざ 63 件）による負傷が最も多く、次いで「不慣れ（本人）」（打撲 41 件、ねんざ 49 件）、「失敗（本人）」（打撲 40 件、ねんざ 36 件）による負傷が多くなっている。また、虫さされの要因としては「虫・動物（環境）」（136 件）が最も多く、次いで「不適切な服装（装備）」（36 件）、「不注意（本人）」（22 件）が多くなっている。

表 2-2-3. 症状別・要因別負傷発生件数

（複数回答：件）

要因		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他
本人	失敗	20	2	23	18	1	0	40	13	36	0	0	18	0	1	1	1	0	0	0	3
	不注意	57	5	60	54	0	0	88	22	63	4	6	19	3	4	4	22	0	0	0	21
	不慣れ	31	2	21	30	2	0	41	11	49	2	0	16	0	3	2	8	0	0	0	22
	不適切な行動	8	0	5	6	0	0	10	4	8	0	0	1	1	0	0	5	0	0	0	3
	寝不足	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	疲労	2	0	5	1	1	0	7	3	13	3	1	3	9	2	0	1	0	0	0	15
	不安・心配・緊張	1	0	0	0	1	0	2	0	1	1	0	0	3	1	0	1	0	0	0	2
	体力不足	0	1	3	0	0	0	5	3	7	3	0	2	1	0	0	1	0	0	0	5
	人間関係	2	0	2	0	0	0	5	3	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	既往症	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	1	0	2	1	0	1	0	1	0	2
	アレルギー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	4	0	1	0	0
指導・引率者	指導不足	13	0	5	11	0	0	18	4	7	1	1	0	0	2	1	4	0	0	0	3
	注意不足	22	2	20	24	0	0	32	9	21	2	1	11	1	2	2	11	0	0	0	10
	経験不足	4	0	2	4	0	0	4	1	4	0	0	2	0	1	1	3	0	0	0	1
	人数不足	0	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	連携不足	2	0	1	0	0	1	3	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	準備不足	4	0	2	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
装備	不適切な服装	3	0	7	8	0	0	3	0	4	0	0	0	0	0	1	36	0	0	0	2
	装備不備	7	0	3	4	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	1
	装備不良	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	施設・設備の欠陥・不良	1	1	0	1	0	0	4	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
環境	荒天	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	気温	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	8	0	0	1	0	0	0	3
	日差し	1	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0
	高度（標高）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	水深	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雪	1	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	落石・落木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	不安定さ・滑りやすさ	7	1	17	0	0	0	12	3	27	2	0	9	0	0	0	0	0	0	0	4
	虫・動物	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	136	0	2	0	0
	植物	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
	病原体（ウイルス等）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		3	0	6	2	0	0	6	0	7	0	0	4	9	2	1	0	0	0	0	9
不明		5	0	2	1	0	0	3	0	3	0	1	0	2	0	1	5	0	0	0	4
回答者数(N=1013)		103	10	106	79	5	0	163	44	143	12	9	50	32	10	13	160	0	3	0	71

(3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数

負傷者の年齢期ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-1）、小学生は「打撲」（70 件）、「虫さされ」（55 件）、「やけど」（48 件）、中学生は「打撲」（45 件）、「ねんざ」（39 件）、「虫さされ」（32 件）、高校生は「ねんざ」（28 件）、「虫さされ」（27 件）、「打撲」（15 件）、「きり傷」（15 件）による負傷が多くなっている。

男女で負傷の症状を比較すると、男性は「きり傷」（71 件）、「すり傷」（63 件）、「やけど」（41 件）、「打撲」（97 件）、「突き指」（26 件）、「骨折」（32 件）による負傷が女性に比べて多くなっている。そこで、年齢期ごとに男女の負傷の発生件数を比較したところ、いずれの年齢期でも男性のほうが多くなっており、その差は小学生で顕著になっている。

表 2-3-1. 年齢期・性別・症状別負傷発生件数

(件)

年齢期	性別	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
幼児	全体	4	0	9	2	0	0	7	0	1	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	3	30
	男	3	0	8	1	0	0	6	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2	23
	女	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	7
小学生	全体	36	6	44	48	1	0	70	5	44	1	3	16	20	5	4	55	1	0	0	11	370
	男	22	3	21	26	0	0	47	2	20	1	2	9	11	3	3	34	1	0	0	8	213
	女	14	3	23	22	1	0	23	3	24	0	1	7	9	2	1	21	0	0	0	3	157
中学生	全体	20	0	18	17	1	0	45	27	39	3	2	21	9	3	5	32	0	0	0	16	258
	男	14	0	12	11	0	0	23	17	15	2	1	16	1	2	3	16	0	0	0	8	141
	女	6	0	6	6	1	0	22	10	24	1	1	5	8	1	2	16	0	0	0	8	117
高校生	全体	15	2	13	7	0	0	15	6	28	0	1	4	3	1	4	27	1	0	0	20	147
	男	11	2	7	2	0	0	8	4	15	0	1	1	1	1	2	13	1	0	0	11	80
	女	4	0	6	5	0	0	7	2	13	0	0	3	2	0	2	14	0	0	0	9	67
大学生等	全体	16	1	17	3	2	0	14	2	20	5	1	2	0	1	0	28	1	0	0	11	124
	男	13	1	10	0	1	0	7	0	8	4	1	1	0	1	0	9	1	0	0	7	64
	女	3	0	7	3	1	0	7	2	12	1	0	1	0	0	0	19	0	0	0	4	60
社会人	全体	12	1	5	2	1	0	10	4	11	3	2	5	0	0	0	15	0	0	0	9	80
	男	8	1	5	1	0	0	5	3	7	1	1	3	0	0	0	6	0	0	0	7	48
	女	4	0	0	1	1	0	5	1	4	2	1	2	0	0	0	9	0	0	0	2	32
その他	全体	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4
	男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
	女	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	103	10	106	79	5	0	163	44	143	12	9	50	32	10	13	160	3	0	0	71	1013
	男	71	7	63	41	1	0	97	26	65	8	6	32	13	7	8	80	3	0	0	44	572
	女	32	3	43	38	4	0	66	18	78	4	3	18	19	3	5	80	0	0	0	27	441

② 月別・症状別にみた負傷の発生件数

月ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-2）、5 月、7 月、8 月は「虫さされ」（5 月 30 件、7 月 38 件、8 月 34 件）による負傷が多く、その他の月をみると、4 月は「ねんざ」（18 件）、6 月は「打撲」（25 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-2. 月別・症状別負傷発生件数

(件)

月		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
春・夏	4月	9	2	12	3	0	0	10	10	18	0	1	4	2	0	4	15	0	0	0	14	104
	5月	19	1	12	9	1	0	29	11	24	3	0	4	4	2	1	30	0	0	0	9	159
	6月	9	2	15	18	3	0	25	5	21	1	2	6	2	1	1	19	0	0	0	8	138
	7月	16	3	15	16	0	0	20	6	15	0	0	5	13	3	2	38	2	0	0	8	162
	8月	17	0	14	7	1	0	24	1	18	5	2	4	6	3	3	34	1	0	0	12	152
	9月	9	0	13	13	0	0	17	7	13	1	0	4	0	0	1	10	0	0	0	3	91
秋・冬	10月	4	0	7	10	0	0	8	1	7	0	2	4	3	0	0	9	0	0	0	3	58
	11月	8	0	3	0	0	0	9	2	6	1	2	1	0	0	0	3	0	0	0	4	39
	12月	4	0	5	0	0	0	4	1	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	24
	1月	4	1	4	1	0	0	11	0	10	0	0	11	0	1	0	0	0	0	0	2	45
	2月	4	1	6	2	0	0	6	0	7	1	0	5	2	0	1	2	0	0	0	4	41
	3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		103	10	106	79	5	0	163	44	143	12	9	50	32	10	13	160	3	0	0	71	1013

③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数

時間ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-3）、発生件数の多かった 11 時、15 時、16 時では「打撲」「ねんざ」「虫さされ」による負傷が多くなっている。そこで、症状ごとに各生活時間帯の発生件数をみたところ、いずれの症状も、午後の活動の時間帯（13～16 時）（打撲 60 件、ねんざ 71 件、虫さされ 62 件）は、午前の活動の時間帯（9～11 時）（打撲 31 件、ねんざ 35 件、虫さされ 30 件）に比べ、負傷の発生件数が約 2 倍になっていることが分かった。

表 2-3-3. 時間別・症状別負傷発生件数

(件)

時間		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
起床・朝食等	6時	3	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	11
	7時	2	0	3	3	0	0	6	0	1	0	0	0	1	0	1	6	0	0	0	2	25
	8時	1	0	2	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	13
活動(午前)	9時	2	1	2	1	0	0	1	0	2	0	0	2	7	1	0	2	0	0	0	2	23
	10時	7	2	12	5	0	0	13	4	14	2	1	3	1	0	1	18	1	0	0	7	91
	11時	12	0	13	10	0	0	17	10	19	1	0	8	0	0	3	10	0	0	0	13	116
昼食	12時	7	0	5	12	2	0	7	2	5	0	1	1	1	0	0	18	1	0	0	5	67
活動(午後)	13時	5	2	6	5	2	0	11	4	11	1	2	2	2	0	2	9	0	0	0	1	65
	14時	5	0	11	5	0	0	15	4	23	0	3	10	2	1	0	15	0	0	0	6	100
	15時	10	2	13	7	0	0	15	9	22	2	0	6	3	1	1	18	0	0	0	5	114
	16時	17	0	16	12	0	0	19	5	15	4	0	3	1	4	1	20	0	0	0	6	123
夕食・入浴等	17時	9	0	5	5	0	0	9	1	4	0	2	2	3	1	2	14	0	0	0	4	61
	18時	8	2	6	6	0	0	11	0	5	1	0	1	1	0	0	6	0	0	0	4	51
活動(夜)	19時	4	1	6	3	1	0	11	0	5	0	0	3	3	1	1	5	0	0	0	5	49
	20時	2	0	1	2	0	0	15	0	6	0	0	4	3	0	0	8	0	0	0	4	45
	21時	7	0	2	1	0	0	4	1	5	0	0	2	3	0	0	3	1	0	0	4	33
	22時	2	0	3	0	0	0	3	0	1	1	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	14
就寝	23～5時	0	0	0	1	0	0	4	0	2	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	1	12
計		103	10	106	79	5	0	163	44	143	12	9	50	32	10	13	160	3	0	0	71	1013

※上記(左)の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

④ 活動内容別、場所別・症状別にみた負傷の発生件数

活動内容ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-4）、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「打撲」（27 件）、「ねんざ」（25 件）、「すり傷」（16 件）による負傷が多くなっており、次いで、野外炊事では「やけど」（47 件）、「きり傷」（28 件）、「虫さされ」（22 件）、登山・ハイキングでは「ねんざ」（33 件）、「虫さされ」（25 件）、「すり傷」（7 件）による負傷が多くなっている。

場所ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-5）、屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）では「ねんざ」（57 件）、「虫さされ」（45 件）、「すり傷」（24 件）による負傷が多くなっており、次いで、グラウンド・広場・コート等では「すり傷」（36 件）、「虫さされ」（29 件）、「打撲」（23 件）、体育館・プレイホール・講堂では「打撲」（37 件）、「ねんざ」（32 件）、「きり傷」（10 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-4. 活動内容別・症状別負傷発生件数

(件)

活動	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
登山・ハイキング	2	0	7	1	1	0	6	3	33	1	1	2	1	1	0	25	0	0	0	9	93
オリエンテーリング・ウォークラリー	6	0	11	0	0	0	8	3	21	1	0	2	2	0	4	16	0	0	0	1	75
陸上活動	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
クロスカントリー	1	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
サイクリング・マウンテンバイク	2	2	5	0	1	0	10	0	3	1	0	3	0	0	0	15	0	0	0	1	43
アドベンチャープログラム・インシアティヴゲーム	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
クライミング・ボルダリング	9	0	16	0	0	0	27	12	25	4	2	10	3	2	1	4	0	0	0	11	126
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	0	0	3	2	0	0	2	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	21
カッター・カヌー・ボート、ヨット	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
シュノーケリング・スキndaイビング	0	1	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	7
海水浴・磯遊び・釣り	2	0	1	0	0	0	6	0	1	0	1	2	0	0	0	6	0	0	0	2	21
沢登り・川遊び	0	0	0	0	0	0	3	0	9	0	0	9	0	1	0	0	0	0	0	4	26
スキー・スノーボード	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
クロスカントリースキー	1	0	5	0	0	0	6	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	17
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	28	0	6	47	0	0	4	0	5	0	2	1	1	0	2	22	2	0	0	3	123
野外炊事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
キャンプ(テント設営等)	1	1	2	5	0	0	5	1	3	0	0	1	2	0	0	3	0	0	0	5	29
キャンプファイヤー・キャンプセルモニー	7	2	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	1	28
創作活動(クラブ等)	0	0	3	0	0	0	4	1	3	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	18
自然観察	3	0	3	1	0	0	16	5	8	1	0	1	6	0	2	10	1	0	0	9	66
研修・学習活動	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
奉仕活動	12	1	11	1	0	0	17	4	10	0	2	5	4	3	0	10	0	0	0	8	88
自由時間	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	6	0	0	0	1	13
つどい(朝・夕)	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	6
清掃	2	0	0	5	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0	0	0	1	16
食事	9	0	4	1	0	0	10	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	27
入浴	5	1	0	2	0	0	7	0	1	0	0	2	3	1	1	11	0	0	0	1	35
就寝時間(起床時も含む)	3	2	17	0	0	0	16	1	11	0	0	5	2	0	0	2	0	0	0	1	60
移動中	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	7
入所前	8	0	1	2	1	0	8	4	6	1	1	1	2	0	0	11	0	0	0	1	47
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	103	10	106	79	5	0	163	44	143	12	9	50	32	10	13	160	3	0	0	71	1013
計																					

表 2-3-5. 場所別・症状別負傷発生件数

(件)

場所	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
生活エリア	13	1	1	5	0	0	22	6	10	0	1	5	9	3	1	13	0	0	0	5	95
宿泊室	4	1	10	0	0	0	14	0	15	1	0	2	0	0	0	6	0	0	0	1	54
通路・階段	2	0	0	5	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	1	15
食堂	9	0	4	1	0	0	9	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	26
浴室	3	1	1	10	0	0	8	1	0	0	0	1	6	1	2	8	1	0	0	4	47
研修室・オリエンテーション室	10	1	6	4	0	0	37	14	32	4	3	6	8	1	1	3	0	0	0	16	146
体育館・プレイホール・講堂	0	1	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
武道場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クライミングウォール	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
工作室・調理室等	25	1	7	46	0	0	6	0	5	0	2	1	1	0	2	21	2	0	0	4	123
野外炊事場	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	1	13
テントサイト	15	1	36	3	1	0	23	3	10	3	1	15	0	2	0	29	0	0	0	7	149
グラウンド・広場・コート等	12	1	24	1	1	0	20	6	57	1	2	8	2	1	4	45	0	0	0	16	201
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	11
ロープスコース※	0	1	4	2	2	0	1	6	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	21
海洋施設	5	0	6	0	0	0	2	2	7	0	0	8	1	0	2	4	0	0	0	5	42
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	2	1	6	1	1	0	14	4	5	1	0	4	3	1	1	9	0	0	0	7	60
その他	103	10	106	79	5	0	163	44	143	12	9	50	32	10	13	160	3	0	0	71	1013
計																					

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数

天候ごとに発生した負傷した症状をみると（表 2-3-6）、晴では「虫さされ」（109 件）、曇や雨、雪では「打撲」（曇 45 件、雨 24 件、雪 5 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-6. 天候別・症状別負傷発生件数

(件)

天候	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
晴	49	4	72	38	5	0	89	24	83	6	6	33	20	5	7	109	2	0	0	49	601
曇	34	2	25	27	0	0	45	12	42	4	2	12	11	3	4	38	1	0	0	13	275
雨	15	4	9	14	0	0	24	8	16	2	1	5	1	2	2	13	0	0	0	7	123
雪	5	0	0	0	0	0	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	14
計	103	10	106	79	5	0	163	44	143	12	9	50	32	10	13	160	3	0	0	71	1013

(4) 負傷した時の状況

① 負傷の多かった活動の事例（上位5つ）

〔スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）〕

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／体育館・プレイホール・講堂

症状	脱臼（顔）	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	バドミントンの練習中、他の選手のラケットが顔に接触し、右側の前歯を脱臼、口内を切った。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／体育館・プレイホール・講堂

症状	骨折（前腕）	程度	重傷	傷病者	大学生等・男
状況	体育館にてバレーの試合中、他のプレイヤーと接触し、腕がそのプレイヤーの下敷きになり、骨折した。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／グラウンド・広場・コート等

症状	骨折（手首）	程度	重傷	傷病者	高校生・女
状況	テニスのダッシュで後ろ向きに走っていてバランスを崩して仰向けに転倒、左手首を骨折した。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／グラウンド・広場・コート等

症状	骨折（手・指）	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	フットサル中、相手がボールを蹴ろうとして誤って手を蹴ってしまった。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／研修室・オリエンテーション室

症状	歯の破折（顔）	程度	軽傷	傷病者	大学生等・男
状況	合気道の稽古中、受け身を失敗し、前歯を畳に強打して歯が破折した。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／体育館・プレイホール・講堂

症状	歯の破折（顔）	程度	軽傷	傷病者	高校生・男
状況	バスケットボール最中、ボールが顔面にあたり歯を破折した。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）

症状	打撲（手首）	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	アスレチックの1本綱渡りで綱を握れず右肩から転落。その際、右手首をついて痛めた				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／体育館・プレイホール・講堂

症状	ねんざ（足首）	程度	軽傷	傷病者	高校生・女
状況	二人三脚リレーを行っている最中、ペアリングメンバーとの足が合わず転倒。この時、紐をつないでいた左側の足首をひねった。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／グラウンド・広場・コート等

症状	すり傷（顔）	程度	軽微	傷病者	小学生・女
状況	集いの広場で乗り物遊びをしていた際、乗り物同士が衝突して、乗り物ごと横に倒れ、負傷した。				

〔野外炊事〕

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	きり傷(手・指)	程度	重傷	傷病者	社会人・男
状況	指導とは異なる方法でナタを使用してけがをした。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	やけど(顔)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	野外炊事でカレー作りをしているとき、鍋の油が顔にはねた。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	眼のけが(眼)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	野外炊事終了後に灰の片づけをしていた際、灰が左目に入ってしまった。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	眼のけが(眼)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	野外炊事時、突然目の痛みを感じた。翌日になっても治らなかったため病院を受診したところ、木片が入っていた。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	やけど(上腕)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	野外炊事のかまどから火のついた木片が飛び、腕に当たった。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	やけど(前腕)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	鍋に左腕が触れてしまいやけどした。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	きり傷(手・指)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	キンドリングクラッカーを使用して、薪割中に指を薪の間に挟んで受傷した。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	やけど(手・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	野外炊事で洗い物をしていて、隣に置いてあった熱い鍋に誤って手が触れ、右手甲をやけどした。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	脱臼(足・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	かまど掃除時に鉄板を倒し、左足の薬指・小指の間に落とした。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊事場

症状	虫さされ(足首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	野外炊事後に足首にマダニがついているのをみつけた。				

〔登山・ハイキング〕

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	脱臼(肩)	程度	重傷	傷病者	社会人・女
状況	下山中、左足を木の根にひっかけて前のめりに転倒し、左肩脱臼および左足太ももが裂傷した。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	歯の破折(顔)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	ハイキングの途中滑って前に転んで前歯が欠けた。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(手・指)	程度	軽傷	傷病者	社会人・女
状況	児童と話しながら歩いていた時、児童に腕を引っ張られたためバランスを崩し、転倒。その際に左手をついて痛めた。				

〔活動〕 登山・ハイキング／敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)

症状	虫さされ(腹)	程度	軽傷	傷病者	中学生・女
状況	ハイキング中にマダニに咬まれた。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	ねんざ(足首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	ハイキングをしていて石の上に乗ってしまい、足首をねんざ。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	ねんざ(足首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	キャンプ場の方へ下り坂を走っていた時、後ろから人がぶつかり、転んで足首をねんざした。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	虫さされ(手・指)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	ハイキング中にバッタを追いかけてハチの巣に接触。手・指・大腿・足首をハチにさされた。				

〔自由時間〕

〔活動〕 自由時間／グラウンド・広場・コート等

症状	骨折(肘)	程度	重傷	傷病者	幼児・男
状況	休憩中に走っていた際、子ども同士が接触し転倒。右腕を床にぶつけてしまった。				

〔活動〕 自由時間／体育館・プレイホール・講堂

症状	脱臼(膝)	程度	重傷	傷病者	高校生・男
状況	タックルをし合っていた際、勢いよくねじれた感じで転倒し、直後より痛みと違和感があつた。				

〔活動〕 自由時間／体育館・プレイホール・講堂

症状	骨折(膝)	程度	重傷	傷病者	高校生・男
状況	レクリエーション前に遊んでおり、バスケットボールのゴールに向かってジャンプしようと踏み切った時に体勢をくずした。				

〔活動〕 自由時間／宿泊室

症状	きり傷(頭)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	ベッドから床に降りる際、布団が足に絡まり、前のベッドの角に額をぶつけてしまった。				

〔活動〕 自由時間／通路・階段

症状	きり傷(頭)	程度	軽傷	傷病者	大学生等・男
状況	廊下を走っていて滑って転倒、壁にぶつかって前頭部に裂創を負った。				

〔活動〕 自由時間／グラウンド・広場・コート等

症状	きり傷(頭)	程度	軽傷	傷病者	社会人・女
状況	長縄飛び中に転倒。髪留めの金属部分にて頭皮を損傷した。				

〔活動〕 自由時間／宿泊室

症状	打撲(頭)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	座っていたところ、飛んできた枕が体に当たり、後ろへ転倒。木の柱で後頭部を打った。				

〔活動〕 自由時間／宿泊室

症状	打撲(頭)	程度	軽傷	傷病者	幼児・男
状況	母親がベットに座らせ、目を離したすきにベットから転落した。				

〔活動〕 自由時間／宿泊室

症状	歯の破折(顔)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	友達と自由時間にふざけていて顔を蹴られ、歯をぶつけた。				

〔オリエンテーリング・ウォークラリー〕

〔活動〕 オリエンテーリング・ウォークラリー／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(膝)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	オリエンテーリングコースを走っていた際、木の板の上で滑り、転倒。右ひざを強打した。				

〔活動〕 オリエンテーリング・ウォークラリー／グラウンド・広場・コート等

症状	骨折(下腿)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	階段横の側溝のふたの上で滑り、転倒した。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	打撲(手首)	程度	軽傷	傷病者	中学生・女
状況	下り坂を歩いておりていたが、地面につまづき、手首を地面に打ちつけた。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	きり傷(手・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	有刺鉄線に引っかかって右手小指を切った。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	きり傷(手・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	オリエンテーリング中、草を引っ張って小指が切れ、3針縫合した。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	すり傷(顔)	程度	軽微	傷病者	小学生・女
状況	オリエンテーリング中に、崖で足を滑らせコース外に落ち、左ほほ、額、足に擦り傷を負った。				

② その他の活動で重傷だった事例

[活動] アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(肩)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	アスレチック中に誤って肩から転倒した。				

[活動] アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム／グラウンド・広場・コート等

症状	靱帯損傷・断裂(膝)	程度	重傷	傷病者	中学生・女
状況	ロープスコースの場所から多目的フィールドへの下り坂で左ひざが外れた感じになった。				

[活動] 雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(足首)	程度	重傷	傷病者	社会人・男
状況	そりコースで滑走中、コース側面のネットに足が引っ掛かり足首を骨折した。				

[活動] 沢登り・川遊び／その他

症状	打撲(腹)	程度	重傷	傷病者	社会人・男
状況	岩場で足を滑らせ水面に転倒。水の中の岩場にぶつけた。				

3. 疾病の概況

(1) 疾病の状態

疾病の症状をみると（表 3-1-1）、「発熱」（704 件）が最も多く、次いで「頭痛」（319 件）、「腹痛」（229 件）となっている。

疾病が発症した要因（複数回答）をみると（表 3-1-2）、「疲労（本人）」（1270 件）が最も多く、次いで「不安・心配・緊張（本人）」（423 件）、「気温（環境）」（403 件）となっており、本人に係る要因（2722 件）が 7 割弱、環境に係る要因（751 件）が 2 割弱を占めている状況であった。

疾病の発症時期をみると（表 3-1-3）、「急に」（1055 件）が最も多く、次いで「今朝から」（609 件）、「前日から」（308 件）となっている。

表 3-1-1. 症状別疾病発生件数・割合

症状	件	%
発熱	704	31.3
咳・喉の痛み	89	4.0
くしゃみ・鼻水	9	0.4
喘息	45	2.0
過呼吸	31	1.4
頭痛	319	14.2
めまい	59	2.6
吐き気	189	8.4
嘔吐	195	8.7
腹痛	229	10.2
下痢	20	0.9
生理痛	21	0.9
歯痛	8	0.4
脱水	27	1.2
けいれん	5	0.2
倦怠感(だるさ)	124	5.5
発疹	19	0.8
低体温	5	0.2
その他	149	6.6
計	2247	100.0

表 3-1-3. 発症時期別疾病発生件数・割合

時期	件	%
数日前から	124	5.5
前日から	308	13.7
今朝から	609	27.1
急に	1055	47.0
その他	118	5.3
不明	33	1.5
計	2247	100.0

表 3-1-2. 要因別疾病発生件数・割合

(複数回答)

要因	件	%	%
本人			67.2
失敗	7	0.3	
不注意	33	1.5	
不慣れ	205	9.1	
不適切な行動	12	0.5	
寝不足	373	16.6	
疲労	1270	56.5	
不安・心配・緊張	423	18.8	
体力不足	216	9.6	
人間関係(けんか、ふざけ等)	11	0.5	
既往症	121	5.4	
アレルギー	51	2.3	
指導・引率者			3.6
指導不足	33	1.5	
注意不足	78	3.5	
経験不足	14	0.6	
人数不足	4	0.2	
連携不足	3	0.1	
準備不足	13	0.6	
装備			1.4
不適切な服装	40	1.8	
装備不備	13	0.6	
装備不良(破損・劣化)	0	0	
施設・設備の欠陥・不良	5	0.2	
環境			18.5
荒天(強風、雷、吹雪等)	34	1.5	
気温	403	17.9	
日差し	154	6.9	
高度(標高)	27	1.2	
雪	7	0.3	
落石・落木	0	0	
不安定さ・滑りやすさ	4	0.2	
虫・動物	2	0.1	
植物	3	0.1	
病原体(ウイルス等)	117	5.2	
その他	220	9.8	5.4
不明	153	6.8	3.8
回答者数	2247		↑

※上記の数値は回答数(N=4049)を基に割合を算出

(2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応

症状ごとに疾病の発症要因（複数回答）をみると（表 3-2-1）、発熱では「疲労（本人）」（425 件）、「気温（環境）」（128 件）、「不安・心配・緊張（本人）」（98 件）が多くなっており、頭痛では「疲労（本人）」（188 件）、「気温（環境）」（74 件）、「寝不足（本人）」（65 件）、腹痛では「疲労（本人）」（118 件）、「不安・心配・緊張（本人）」（68 件）、「不慣れ（本人）」（25 件）による発症が多くなっている。

表 3-2-1. 要因別・症状別疾病発生件数

（複数回答：件）

要因		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他
本人	失敗	0	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	不注意	9	2	0	0	0	2	1	3	7	1	0	0	0	4	0	3	0	0	1
	不慣れ	41	7	0	3	9	44	7	13	19	25	4	1	0	5	0	11	0	2	14
	不適切な行動	3	0	0	2	0	2	0	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	寝不足	97	19	0	9	6	65	10	39	33	24	6	2	0	3	0	31	0	0	29
	疲労	425	62	4	23	14	188	37	102	110	118	13	6	5	16	2	77	2	5	61
	不安・心配・緊張	98	9	0	11	14	60	12	40	41	68	3	6	4	4	0	25	0	0	28
	体力不足	62	9	0	2	6	41	9	17	22	16	1	0	0	5	0	15	0	0	11
	人間関係	1	0	0	0	2	4	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	既往症	14	3	0	14	2	18	5	6	4	9	2	5	3	1	2	13	1	0	19
	アレルギー	8	3	4	7	2	3	1	1	2	2	0	0	0	0	1	0	10	0	7
指導・引率者	指導不足	6	1	0	1	1	4	1	2	6	4	0	0	0	3	0	3	0	0	1
	注意不足	20	2	0	1	2	11	3	8	8	2	0	0	0	4	0	5	0	1	11
	経験不足	6	0	0	0	0	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	人数不足	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	連携不足	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	準備不足	4	0	0	2	0	1	3	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
装備	不適切な服装	14	2	0	1	0	8	0	1	2	6	1	0	0	0	0	2	0	0	3
	装備不備	1	1	0	0	0	4	2	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	装備不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設・設備の欠陥・不良	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境	荒天	15	1	1	1	0	5	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	気温	128	20	1	8	5	74	17	31	33	17	3	0	1	16	0	23	3	0	23
	日差し	35	9	0	2	4	35	10	15	18	2	1	1	1	6	0	6	1	0	8
	高度（標高）	11	0	0	0	1	6	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	雪	4	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	落石・落木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不安定さ・滑りやすさ	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	虫・動物	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	植物	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	病原体（ウイルス等）	89	4	1	0	0	6	0	4	4	5	1	0	0	0	0	1	0	0	2
その他		68	3	0	3	0	16	3	21	26	36	2	4	0	2	0	5	3	0	28
不明		46	5	1	0	2	17	6	16	14	18	0	5	0	2	1	6	3	0	11
回答者数 (N=2247)		704	89	9	45	31	319	59	189	195	229	20	21	8	27	5	124	19	5	149

症状ごとに疾病の発症時期をみると（表 3-2-2）、発熱、頭痛、腹痛では、「急に」（発熱 272 件、頭痛 155 件、腹痛 120 件）が最も多く、次いで「今朝から」（発熱 216 件、頭痛 87 件、腹痛 58 件）、「前日から」（発熱 138 件、頭痛 40 件、腹痛 26 件）となっている。

表 3-2-2. 発症時期別・症状別疾病発生件数

(件)

時期	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
数日前から	47	19	2	3	0	10	1	6	4	9	2	2	0	0	0	8	2	0	9	124
前日から	138	21	2	3	1	40	1	18	8	26	2	6	1	3	0	24	3	0	11	308
今朝から	216	23	2	12	0	87	7	49	55	58	10	6	0	5	0	48	6	0	25	609
急に	272	21	3	22	28	155	47	104	117	120	6	3	7	19	4	35	7	4	81	1055
その他	14	4	0	5	2	22	1	10	9	16	0	3	0	0	1	7	1	1	22	118
不明	17	1	0	0	0	5	2	2	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	33
計	704	89	9	45	31	319	59	189	195	229	20	21	8	27	5	124	19	5	149	2247

症状ごとに処置・静養後の対応をみると（表 3-2-3）、発熱では「活動継続」（343 件）より「帰宅」（361 件）のほうが多くなっており、発熱の症状が出た者の半数以上が帰宅している状況であった。また、嘔吐についても発症した者のおおよそ 3 割半が帰宅している状況であった。

表 3-2-3. 処置・静養後の対応別・症状別疾病発生件数

(件)

処置・静養後	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
活動継続	343	74	7	39	25	267	48	154	125	193	14	18	6	16	3	105	17	4	109	1567
帰宅	361	15	2	6	6	52	11	35	70	36	6	3	2	11	2	19	2	1	40	680
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	704	89	9	45	31	319	59	189	195	229	20	21	8	27	5	124	19	5	149	2247

(3) 状況別・症状別にみた疾病の発症件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発症件数

年齢期ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-1）、小学生、中学生、高校生ともに「発熱」（小学生 263 件、中学生 183 件、高校生 135 件）が最も多く、次いで、小学生では「嘔吐」（118 件）、中学生、高校生では「頭痛」（中学生 97 件、高校生 68 件）が多くなっている。

男女で疾病の症状を比較すると、男性は「発熱」（378 件）や「嘔吐」（123 件）、女性は「頭痛」（185 件）、「吐き気」（116 件）、「腹痛」（148 件）、「倦怠感（だるさ）」（71 件）の症状が多くなっている。そこで、年齢期ごとに男女の疾病の発症件数を比較したところ、幼児と小学生を除き、いずれの年齢期でも女性のほうが多くなっており、その差は高校生で顕著にみられた。

表 3-3-1. 年齢期別・性別・症状別疾病発症件数 (件)

年齢期	性別	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
幼児	全体	26	0	0	0	0	1	1	3	18	3	0	0	0	0	0	3	0	0	3	58
	男	18	0	0	0	0	1	1	0	12	2	0	0	0	0	0	3	0	0	1	38
	女	8	0	0	0	0	0	0	3	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	20
小学生	全体	263	28	1	18	3	97	16	72	118	86	6	1	1	9	2	41	5	2	62	831
	男	140	18	1	12	2	56	11	40	79	41	4	0	0	8	1	22	3	0	30	468
	女	123	10	0	6	1	41	5	32	39	45	2	1	1	1	1	19	2	2	32	363
中学生	全体	183	26	2	10	8	97	16	43	33	68	7	6	3	5	2	29	7	1	26	572
	男	94	14	0	4	0	39	6	15	21	23	5	0	0	2	1	11	4	1	12	252
	女	89	12	2	6	8	58	10	28	12	45	2	6	3	3	1	18	3	0	14	320
高校生	全体	135	16	4	5	11	68	16	42	11	47	3	8	3	5	1	28	5	1	26	435
	男	71	6	2	2	1	18	5	11	6	6	0	0	3	0	0	8	1	1	8	149
	女	64	10	2	3	10	50	11	31	5	41	3	8	0	5	1	20	4	0	18	286
大学生等	全体	69	13	1	11	3	37	6	18	9	18	4	4	1	3	0	18	0	0	17	232
	男	45	5	0	1	1	17	1	3	4	6	0	0	0	0	0	9	0	0	5	97
	女	24	8	1	10	2	20	5	15	5	12	4	4	1	3	0	9	0	0	12	135
社会人	全体	25	5	1	1	4	18	3	11	6	6	0	2	0	5	0	5	2	1	13	108
	男	9	4	1	0	0	3	1	4	1	2	0	0	0	3	0	0	1	1	5	35
	女	16	1	0	1	4	15	2	7	5	4	0	2	0	2	0	5	1	0	8	73
その他	全体	3	1	0	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11
	男	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6
	女	2	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
不明	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	704	89	9	45	31	319	59	189	195	229	20	21	8	27	5	124	19	5	149	2247
	男	378	48	4	19	5	134	25	73	123	81	9	0	3	13	2	53	9	3	63	1045
	女	326	41	5	26	26	185	34	116	72	148	11	21	5	14	3	71	10	2	86	1202

② 月別・症状別にみた疾病の発生件数

月ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-2）、発生件数の多かった 7 月、8 月は「発熱」（7 月 85 件、8 月 97 件）、「頭痛」（7 月 48 件、8 月 71 件）、「腹痛」（7 月 40 件、8 月 39 件）の症状が多くなっている。「発熱」の発生件数はいずれの月でも多くなっているが、春・夏の時期は 8 月（97 件）、秋・冬の時期は 1 月（82 件）が最も多くなっている。

表 3-3-2. 月別・症状別疾病発生件数

(件)

月		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
春・夏	4月	97	8	3	5	10	42	6	32	14	41	2	5	3	3	1	17	2	2	24	317
	5月	65	20	2	9	4	54	9	24	27	35	10	3	1	1	1	20	4	0	13	302
	6月	78	13	1	4	5	22	6	21	33	29	1	1	0	2	0	13	3	1	15	248
	7月	85	20	0	8	3	48	10	19	37	40	0	1	1	5	0	21	2	0	25	325
	8月	97	8	1	7	4	71	19	37	37	39	2	7	0	14	0	28	4	1	39	415
	9月	61	3	0	4	1	25	4	21	14	16	1	2	3	1	0	13	0	0	9	178
秋・冬	10月	29	4	0	3	2	13	0	7	8	10	1	0	0	0	2	4	1	0	4	88
	11月	23	4	1	1	0	9	1	8	5	3	1	0	0	0	1	1	1	1	6	66
	12月	47	6	0	2	1	11	1	6	5	4	0	1	0	1	0	1	1	0	1	88
	1月	82	2	1	1	1	10	1	8	6	9	1	1	0	0	0	3	0	0	6	132
	2月	40	1	0	1	0	13	2	6	9	3	1	0	0	0	0	3	1	0	7	87
	3月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計		704	89	9	45	31	319	59	189	195	229	20	21	8	27	5	124	19	5	149	2247

③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数

時間ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-3）、「発熱」はいずれの時間でも発生件数が多くなっている。そこで、疾病の申し出が多かった午前中の時間帯をみると、起床・朝食等の時間帯では「嘔吐」（62 件）の症状が多く、活動（午前中）の時間帯では「頭痛」（95 件）の症状が発熱に次いで多くなっている。

表 3-3-3. 時間別・症状別疾病発生件数

(件)

時間		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
起床・朝食等	6時	37	2	0	2	0	8	0	4	8	3	0	1	0	2	0	4	3	0	8	82
	7時	55	8	2	6	0	14	7	14	22	16	4	1	0	0	0	12	0	0	8	169
	8時	54	2	0	2	1	22	2	28	32	22	2	0	1	0	0	13	5	1	10	197
活動（午前）	9時	38	16	1	6	0	33	6	23	13	29	3	5	0	4	0	16	1	0	6	200
	10時	35	10	1	2	4	31	6	20	13	20	1	1	0	1	0	15	0	0	16	176
	11時	32	8	1	4	3	31	8	13	11	13	1	4	0	2	0	10	2	0	18	161
昼食	12時	46	6	1	0	3	15	4	9	9	15	1	1	0	3	0	7	1	0	12	133
活動（午後）	13時	58	6	0	1	2	21	3	10	11	22	2	1	1	2	0	7	2	4	9	162
	14時	46	4	1	3	6	29	4	15	5	14	2	4	2	2	0	8	0	0	11	156
	15時	40	1	1	1	2	29	1	8	4	14	1	0	0	4	0	12	0	0	6	124
	16時	38	3	0	2	3	28	7	8	9	9	0	1	3	2	1	7	0	0	8	129
夕食・入浴等	17時	49	2	0	2	0	17	5	8	7	7	0	1	0	2	1	2	1	0	7	111
	18時	41	3	0	3	0	12	1	7	10	12	0	0	0	1	1	6	1	0	5	103
活動（夜）	19時	30	3	0	5	1	4	4	10	11	12	1	0	0	1	0	2	2	0	5	91
	20時	31	3	0	2	0	9	0	5	7	9	0	0	1	0	0	3	0	0	11	81
	21時	33	7	0	2	2	6	1	0	5	2	0	1	0	0	1	0	1	0	5	66
	22時	21	3	1	1	2	5	0	4	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	43
就寝	23～5時	19	2	0	1	2	4	0	3	14	9	2	0	0	1	0	0	0	0	4	61
不明		1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計		704	89	9	45	31	319	59	189	195	229	20	21	8	27	5	124	19	5	149	2247

④ 活動内容別、場所別・症状別にみた疾病の発生件数

活動内容ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-4）、研修・学習活動や自由時間では「発熱」（研修・学習活動 130 件、自由時間 118 件）、「頭痛」（研修・学習活動 78 件、自由時間 34 件）、「腹痛」（研修・学習活動 57 件、自由時間 27 件）、就寝時間（起床時間も含む）では「発熱」（97 件）、「嘔吐」（29 件）、「頭痛」（23 件）の症状が多くなっている。

場所ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-5）、宿泊室、研修室・オリエンテーション室、体育館・プレイホール・講堂のいずれも、「発熱」（宿泊室 216 件、研修室等 85 件、体育館等 127 件）、「頭痛」（宿泊室 55 件、研修室等 57 件、体育館等 51 件）、「腹痛」（宿泊室 56 件、研修室等 38 件、体育館等 34 件）の症状が多くなっている。

表 3-3-4. 活動内容別症状別疾病発生件数

(件)

活動場所	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
登山・ハイキング	19	4	0	4	5	19	2	4	6	9	0	1	0	4	0	3	0	1	10	91
オリエンテーリング・ウォークラリー	22	6	0	1	1	32	4	13	6	11	2	1	2	3	0	8	2	0	4	118
クロスカントリー	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5
サイクリング・マウンテンバイク	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	8	1	0	0	2	7	0	0	0	4	1	0	0	1	0	2	1	0	0	27
クライミング・ボルダリング	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	73	11	0	5	4	38	6	22	21	12	1	0	1	6	1	15	1	1	22	240
カッター・カヌー・ボート・ヨット	7	5	0	1	1	10	0	2	5	5	3	2	0	1	1	0	0	0	4	47
シュノーケリング・スキューバダイビング	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
海水浴・磯遊び・釣り	6	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	13
沢登り・川遊び	4	1	0	0	0	2	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	13
スキー・スノーボード	18	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	25
クロスカントリースキー	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	6	0	1	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12
野外炊事	41	6	2	1	1	16	2	10	8	21	0	0	0	1	0	1	1	1	2	114
キャンプ(テント設置等)	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	14	1	0	2	0	2	2	4	6	2	0	1	0	2	0	2	0	0	5	43
創作活動(クラフト等)	11	1	0	0	0	3	2	2	2	4	0	0	0	0	0	2	0	0	2	29
自然観察	6	0	0	0	0	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	14
研修・学習活動	130	19	1	9	9	78	19	34	16	57	3	7	2	5	2	33	1	0	32	457
奉仕活動	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
自由時間	118	7	0	5	2	34	0	21	20	27	2	2	1	0	1	20	4	0	11	275
つどい(朝・夕)	14	3	0	4	1	9	8	11	3	7	2	0	0	0	0	7	0	0	6	75
清掃	5	4	1	1	0	3	1	5	1	2	2	0	1	0	0	3	1	0	2	32
食事	38	2	0	2	0	13	1	17	45	23	0	1	1	0	0	12	1	1	9	166
入浴	4	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8
就寝時間(起床時も含む)	97	12	1	8	2	23	2	17	29	22	4	1	0	1	0	6	4	0	14	243
移動中	17	1	0	1	0	8	0	8	14	11	0	2	0	1	0	2	0	0	1	66
入所前	9	2	0	0	0	4	1	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	27
その他	21	3	2	1	3	7	4	11	4	5	0	2	0	1	0	6	2	0	13	85
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	704	89	9	45	31	319	59	189	195	229	20	21	8	27	5	124	19	5	149	2247

表 3-3-5. 場所別・症状別疾病発生件数・割合 (件)

場所	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	菌痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
生活エリア																				
宿泊室	216	24	2	13	4	55	4	41	47	56	8	3	1	1	1	28	9	0	29	542
通路・階段	5	0	0	0	0	6	2	3	11	4	0	0	1	0	0	4	0	0	2	38
食堂	31	2	0	3	0	10	1	15	43	21	0	1	2	0	0	9	1	1	8	148
浴室	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
研修室・オリエンテーション室	85	17	1	7	6	57	10	26	18	38	1	3	1	4	0	20	1	0	20	315
体育館・プレイホール・講堂	127	11	1	5	4	51	9	34	17	34	4	3	1	1	2	25	1	0	30	360
武道場	5	1	0	0	1	3	1	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	16
クライミングウォール	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
工作室・調理室等	4	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	10
野外炊事場	38	5	2	1	1	13	2	9	7	21	0	0	0	1	0	2	1	1	2	106
テントサイト	16	1	0	0	0	6	2	0	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	1	31
グラウンド・広場・コート等	60	6	1	9	6	32	20	18	19	13	3	2	1	5	0	11	1	0	15	222
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	54	10	0	6	8	50	4	16	13	20	1	0	1	9	0	16	2	1	16	227
ロープスコース※	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
海洋施設	5	7	1	1	1	9	0	3	4	4	3	0	0	1	1	0	0	0	5	45
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	28	3	1	0	0	13	2	13	3	5	0	6	0	4	1	2	1	1	10	93
その他	27	1	0	0	0	12	2	10	9	8	0	3	0	1	0	2	1	1	9	86
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	704	89	9	45	31	319	59	189	195	229	20	21	8	27	5	124	19	5	149	2247

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数

天候ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-6）、晴、曇、雨のいずれも「発熱」（晴 405 件、曇 184 件、雨 92 件）、「頭痛」（晴 213 件、曇 72 件、雨 31 件）の症状が多くなっている。

表 3-3-6. 天候別症状別疾病発生件数

(件)

天候	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
晴	405	56	5	28	20	213	35	112	109	129	15	13	7	21	3	75	9	2	96	1353
曇	184	22	2	11	6	72	17	48	47	68	4	4	1	4	2	31	9	0	31	563
雨	92	11	2	6	5	31	6	26	36	30	1	4	0	2	0	16	1	3	21	293
雪	23	0	0	0	0	3	1	3	3	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	38
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	704	89	9	45	31	319	59	189	195	229	20	21	8	27	5	124	19	5	149	2247

IV. 傷病の特徴と今後の安全対策

1. 負傷の特徴と安全対策

(1) 負傷の特徴

- 負傷が多かった症状は「打撲」「虫さされ」「ねんざ」で、「打撲」では頭や顔など頭部の負傷が多く、「虫さされ」では下腿や足首といった下肢部の負傷、「ねんざ」では足首や手首の負傷が多くなっている。
- 負傷が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」「野外炊事」「登山・ハイキング」で、「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」では打撲、ねんざ、すり傷による負傷が多く、「野外炊事」ではやけど、きり傷、虫さされ、「登山・ハイキング」ではねんざ、虫さされ、すり傷による負傷が多くなっている。
- 負傷した時の状況をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「アスレチックで綱を握れず、右肩から転落。右手首について打撲」「二人三脚リレーでペアリングメンバーとの足が合わず転倒。紐をつないでいた左側の足首をねんざ」、野外炊事では「カレー作りで鍋の油が顔にはね、やけど」「指導とは異なる方法でナタを使用して切った」、登山・ハイキングは「石の上に乗ってしまい、足首をねんざ」「バッタを追いかけていてハチの巣に接触してしまい、ハチに刺される」といった状況で負傷している。
- 負傷した時間をみると、午前・午後ともに活動の後半の時間帯（午前の活動：11 時台、午後の活動：16 時台）に負傷の発生が多くなる傾向がみられる。
- 負傷した要因をみると、本人の「不注意」「不慣れ」「失敗」、指導・引率者の「注意不足」、環境「虫・動物」が多く挙げられている。

(2) 今後の安全対策

- 負傷の要因の 6 割弱を本人の要因（不注意、不慣れ、失敗等）が占めていることから、指導者（利用団体の引率者、施設職員等）は、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかをイメージしやすいように、具体例を交えて分かりやすく説明する）を徹底し、利用者の安全意識（自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等）の向上に努めるようにする。
- 指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険の発見、把握に努め、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。特に、活動の後半は慣れや疲れ等で気が緩みやすくなるため、参加者に適宜声をかけたり、休憩をとるようにする。
- 施設は、事前打ち合わせの際に、施設で起きやすい事故やけがとその安全対策をきちんと説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるように支援する。

2. 疾病の特徴と安全対策

(1) 疾病の特徴

- 発症した疾病の症状をみると、発熱、頭痛、腹痛、嘔吐、吐き気が上位を占めており、いずれの症状も「疲労」が主な要因として挙げられている。
- 疾病の申し出があった時間をみると、起床・朝食や午前の活動の時間帯（7～10 時台）に多くなる傾向がみられる。
- 疾病が発症した時期をみると、半数近くが急に体調を崩しているが、3 割弱は朝から、1 割強は前日からと答えており、疾病を申し出た者の約 4 割は事前に体調不良を感じている。
- 疾病が発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の約 3 割は帰宅している。

（２）今後の安全対策

- 施設での生活は、慣れない環境による不安や緊張で寝不足になりやすく、その上、普段の生活より体を動かしている時間が長いため、思った以上に疲れがたまりやすい環境にある。そのため、体調を崩し、発熱や頭痛、吐き気といった症状が出てしまうと、病状によっては休養しても活動が続けることが難しくなり、帰宅しなければならないことになる。
- 指導者は、施設での生活は体調を崩しやすい環境にあることを理解し、計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるようにするとともに、利用期間中は、定期的に健康チェックを行い、疲れている様子が見られる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。

傷病記録

別紙1（様式3）

1. 傷病者

1-1. 傷病者の情報をお書きください。

団体名：_____ 氏名：_____ 性別：1. 男 2. 女
年齢：_____ 歳（1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 5. 大学生等 6. 社会人 7. その他）

1-2. けがが発生した又は病気の申し出のあった日時、環境、活動場所、活動内容、対応等をお書きください。

日時：20____年____月____日 ____時頃（24時） 利用者数：_____名（うち指導者____名）

日程：_____日目／全_____日中 天候：1. 晴 2. 曇 3. 雨 4. 雪 環境：1. 屋内 2. 屋外

活動場所：_____ 活動内容：_____

病院の受診：1. 無 2. 有（日帰り） 3. 有（入院） 処置・静養後：1. 活動継続 2. 帰宅

以下、病気の場合は「2.」、けがの場合は「3.」を記入し、最後に「4. 傷病の要因」についてお答えください。

2. 病気

2-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「発症時期」をお答えください。（○はそれぞれ1つ）

【症状】 1. 発熱 2. 咳・喉の痛み 3. くしゃみ・鼻水 4. 喘息 5. 過呼吸 6. 頭痛 7. めまい
8. 吐き気 9. 嘔吐 10. 腹痛 11. 下痢 12. 生理痛 13. 歯痛 14. 脱水 15. けいれん
16. 倦怠感（だるさ） 17. 発疹 18. 低体温 19. その他（_____）

【時期】 1. 数日前から 2. 前日から 3. 今朝から 4. 急に 5. その他（_____）

3. けが

3-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「部位」と「程度」をお答えください。（○はそれぞれ1つ）

【症状】 1. きり傷 2. さし傷 3. すり傷 4. やけど 5. 日焼け 6. 凍傷 7. 打撲 8. 突き指
9. ねんざ 10. 靱帯損傷・断裂 11. 脱臼 12. 骨折 13. 鼻血 14. 歯の破折 15. 眼のけが
16. 虫刺され（→ a. アブ・ブヨ b. ハチ c. ダニ d. 毛虫 e. ムカデ f. クラゲ g. その他（_____））
17. かぶれ 18. 気道閉塞・誤嚥 19. 溺水 20. その他（_____）

【部位】 1. 頭 2. 顔 3. 眼 4. 首 5. 肩 6. 上腕 7. 肘 8. 前腕 9. 手首 10. 手・指 11. 胸
12. 腹 13. 背中 14. 腰 15. 尻 16. 大腿 17. 膝 18. 下腿 19. 足首 20. 足・指 21. 全身

【程度】 1. 軽微（その場で手当てでできる軽いけが） 2. 軽傷（医師による1か月未満の治療を要するけが）
3. 重傷（医師による1か月以上の治療を要するけが） 4. 致命傷（死亡・後遺症が残る重篤なけが）

3-2. けがをした時の状況（何をしていた、どのようにけがをしたのか）を具体的にお書きください。

4. 傷病の要因

4-1. 傷病が発生した要因と思われる事柄を以下から選んでください。（○はいくつでも）

【本人】 1. 失敗 2. 不注意 3. 不慣れ 4. 不適切な行動 5. 寝不足 6. 疲労 7. 不安・心配・緊張
8. 体力不足 9. 人間関係（けんか、ふざけ等） 10. 既往症 11. アレルギー
【指導・引率者】 12. 指導不足 13. 注意不足 14. 経験不足 15. 人数不足 16. 連携不足 17. 準備不足
【装 備 等】 18. 不適切な服装 19. 装備不備 20. 装備不良（破損・劣化） 21. 施設・設備の欠陥・不良
【環 境】 22. 荒天（強風、雷、吹雪等） 23. 気温 24. 日差し 25. 高度（標高） 26. 水深 27. 雪
28. 落石・落木 29. 不安定さ・滑りやすさ 30. 虫・動物 31. 植物 32. 病原体（ウィルス等）
【その他】 33. その他（1.～32.以外の要因）（_____）

施設記入欄

受理者：_____ ※受理者は記入漏れがないか受取時に確認してください。

【事業種別】 1. 研修支援 2. 教育事業 【No】 _____（年度の通し番号）

安全

楽しい活動の第一歩
～事故0を目指して～

楽しい活動は「安全」という土台があってはじめて成り立ちます。
安全に楽しく活動するためには、どのような活動でこういった事故やけがが起きやすいのかを理解し、そのための対策をあらかじめ考え、準備しておく必要があります。

けがをしやすい活動 ワースト3(春～夏)

平成30年度「傷病調査」(上半期)集計結果(速報値)



2位

野外炊事 (110件)

《けがの種類》

やけど……40.0%
きり傷……20.0%
虫刺され……13.6%

《けがをした状況》

- 鍋のふたの取っ手を素手でつかんでしまい、やけど。
- 薪を押さえていた手にナタが当たり、人差し指を切った。



1位 スポーツ活動 (151件)

《けがの種類》

打撲……22.5%
ねんざ……18.5%
虫刺され……14.6%

《けがをした状況》

- ボールをよけた時に人とぶつかり、バランスを崩して転倒、後頭部を強打。
- 走っている時に足首をひねり、ねんざ。

3位

登山・ハイキング (80件)

《けがの種類》

虫刺され……32.5%
ねんざ……22.5%
打撲……12.5%

《けがをした状況》

- 下山後、足首についたマダニを発見。
- 下山中、足場の悪いところで足をひねり、ねんざ。



活動中の事故やけがを予防するためには？(春～夏)

スポーツ活動では

- 運動前にウォーミングアップとストレッチ(特に脚)をしっかりとしておく。
- 周りをよく見ながら動くようにする。



野外炊事では

- 軍手、長袖、長ズボンなど野外炊事に適した服装をする。
- 包丁やナタの使い方を説明するだけでなく、誤った持ち方や動かし方などを実際に見せながら、どうしたら手を切ってしまうのかを分かりやすく説明する。



登山・ハイキングでは

- 帽子、長袖、長ズボン、手袋、足首を覆う靴下の着用など、登山・ハイキングに適した服装をする。
- マダニなどの侵入を防ぐため、シャツの裾はズボンの中に入れるようにする。
- 適宜休憩を取るようにし、足場が悪いところは注意しながら歩くように声をかけるようにする。



Attention!

思わぬ事故や
けがに注意!



- 1 自由時間にベッドで遊んでいて転落(腕の骨折)
- 1 ガラス戸に気づかず入ろうとして顔面を強打(歯の破折)
- 1 入浴中にふざけて熱湯をかけてしまい、やけど(上半身・太腿にⅡ度の熱傷)
- 1 地図を見ながら歩いていて側溝にはまり、足を強打(下腿の裂傷)
- 1 階段を飛び降りて着地に失敗し、足をくじく(足首のねんざ)

けがに注意!!

青少年教育施設で起きたけが ワースト3(※~※)

平成30年度「傷病調査」(上半期)集計結果(速報値)

3位 んんざ (114件)

《けがをしたところ》

足首……………74.8%
足・指……………9.0%
手首……………7.2%

《けがの要因》

■不注意(本人)
■不慣れな活動(本人)
■不安定さ・滑りやすさ(環境)

んんざ
12.7%

虫刺され
18.8%

打撲
16.9%

1位 虫刺され (168件)

《けがをしたところ》《けがの要因》

下腿……………21.7% ■虫・動物(環境)
足首……………14.6% ■不適切な服装(装備)
手・指……………13.4% ■不注意(本人)

虫の種類

タビ 10.8%
アブ 49.6%
アリ 79.4%

2位 打撲 (151件)

《けがをしたところ》

頭……………28.4%
顔……………10.8%
手・指、腕、足・指……………9.5%

《けがの要因》

■不注意(本人)
■注意不足(指導・引率者)
■失敗、不慣れな活動(本人)

安全で楽しく活動するために

体験活動には、思わぬ事故や大きなけがが発生するリスクがあります。体験活動の指導者は、活動の指導や支援を行うだけでなく、子供たちが安全に活動できる環境づくりにも配慮することが大切です。

安全管理の3つのポイント

01 計画段階では見落としがないようにできるだけ多くの危険を洗い出し、活動中も危険の発見・把握に努めながら、状況に応じて適切な安全対策を講じるようにしましょう。

02 指導者間で想定される危険や安全対策の情報を共有するとともに、事故が起きた時の対応や手順の確認などを行い、子供たちの安全を確保できる体制づくりを行うようにしましょう。

03 子供たちには、安全に関するセーフティークを行うなど、「自分の身の安全は自分で守る」という意識を持たせるようにしましょう。

安全と危険のバランスを考える

「安全を意識し過ぎる」ことにも注意が必要です。

過度に活動を制限したり、禁止したりすると、子供たちの活動に対する満足度が低下するだけでなく、安全に対する自主性や主体性をなくす機会も失われ、活動の教育効果が薄れてしまうことにもなりかねません。

指導者は、想定されるリスクを自分たちの許容範囲に抑えつつ、適切な安全管理にならないよう安全と危険のバランスを考えながら活動することが大切です。

✓ 活動前のチェックリスト

- ☐ 活動場所で危ないところがないか、使用する用具に破損がないかなどを点検しましたか?
- ☐ 気象情報(天気、気温、湿度、風など)を確認しましたか?
- ☐ スタッフ間で情報共有(子供の人数や特性、役割分担、配置、禁止事項、緊急時の対応など)はできていますか?
- ☐ 子供たちは活動に適した服装(帽子、長袖、長ズボン、軍手など)をしていますか? また、持ち物も確認しましたか?
- ☐ 体の調子が悪い子供や気分がすぐれない子供はいないか、活動前に確認しましたか?
- ☐ セーフティーク(安全指導)を行いましたか?

事故0

事故を起こさないために

想定外の事故やけがを起こさないために最も気をつけなければならないのは、「隠れた危険(危険の見落とし)」がないようにすることです。

「ちょっと気になることがある」、「ちょっと不安がある」といった状態で活動することは事故の元になります。そのような時、場合によっては、活動の中止を決断する「やめる勇気」を持つことも大切です。

このリーフレットに関するお問い合わせ…国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター企画室

TEL:03-6407-7740 E-mail:kenkyu-soumu@niye.go.jp

「国立青少年教育施設における傷病の概況（令和元年度調査）」 実施体制

（調査・普及）

国立青少年教育振興機構教育事業部企画課

（データ処理）

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター企画室

（分析・執筆）

青 木 康太朗 國學院大學人間開発学部子ども支援学科准教授

「国立青少年教育施設における傷病の概況（令和元年度調査）」 報告書

令和2年11月

編集・発行／お問い合わせ先

独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

（施設に関すること）教育事業部企画課研修支援・連携係

電話番号 03-6407-7686 FAX 03-6407-7699

E-mail honbu-sien@niye.go.jp

（分析に関すること）青少年教育研究センター

電話番号 03-6407-7741 FAX 03-6407-7619

E-mail kenkyu-soumu@niye.go.jp
